

平成30年8月2日(木) 愛媛新聞



東京・霞が関の帝人で、炭素繊維の複合材料などを使った軽量の電気自動車に試乗する高校生(右)＝1日午後

東京本社で仕事を実感

松山進出企業
高校生が訪問 働く意義考える

松山市にある県立高校・中等教育学校6校の生徒9人が1日、市内に事業所を置く企業の東京の本社を訪れ、社員との交流などを通して事業内容や仕事の魅力などを学んだ。2日間の日程で、4社を訪ねる。高校生に働く意義や将来の職業選択を考えるきっかけにしておろすと、市の中小企業振興円卓会議(座長・和田寿博愛媛大教授)が昨年に続き実施した。

一行はまず東京・霞が関の帝人を訪問し、企業理念や事業内容などを聞いた。松山事業所で生産するアラミド繊維「テクノーラ」は熱や薬品などに強く、伝動ベルトやゴムホースなどで世界シェア1位といった説明に耳を傾けた後、最新技術を紹介するショールームを見学。炭素繊維の複合材料などを使って軽量化した電気自動車に試乗するなどして先進技術を体感した。北条高3年大北樹さん(17)は「仕事内容を実感できた。この経験を就職時の選択肢として役立てたい」と話していた。

1日はソフト開発のサイボウズも訪問した。2日は人材派遣のパソナグループとシステム開発のデジタル・インフォメーション・テクノロジを訪れ、21日に市内で報告会を行う予定。

(河端渉)

